

独立行政法人 日本芸術文化振興会
第26回 契約監視委員会 議事要旨

開催年月日	令和3年12月6日(月)
委員名簿 (敬称略)	枝川 明敬(東京藝術大学教授) 大石 学(独立行政法人日本芸術文化振興会監事)※委員長 千葉 尚路(弁護士) 藤川裕紀子(独立行政法人日本芸術文化振興会監事)※委員長代理
議事次第	1.委員長の選出及び委員長代理の指名について 2.令和3年度調達等合理化計画における進捗状況について(審議) 3.連続一者応札・応募等事案フォローアップ(令和3年度分)について(審議) 4.令和3年度調達等合理化計画の自己評価の実施(報告) 5.その他
審議点検対象	連続して一者応札・応募等となった案件 ※一者応札・応募等事案フォローアップ票による
総括	(1)審議方法概要と結果 令和3年度の調達と前回の調達が連続一者応札・応募等事案となった全9件について、「一者応札・応募等事案フォローアップ票」に基づき、所管課の説明を受け、点検審議を行った。 連続一者応札・応募の改善の取組として、次の点に留意すること。 ・分離調達とするか一括調達とするかの判断は、競争によって得られる経費の節減効果だけでなく、責任の所在の明確化等も勘案して設定すること。 ・履行可能な業者が限定される場合、契約の適正性や価格の妥当性を確保するため、その調査結果や根拠資料を残しておくこと。